

基礎研第44回研究大会・共通セッションⅡ 2021年10月3日

# 「雇用によらない働き方」から見る資本制生産体制

所員 高田好章

## \* 前書き

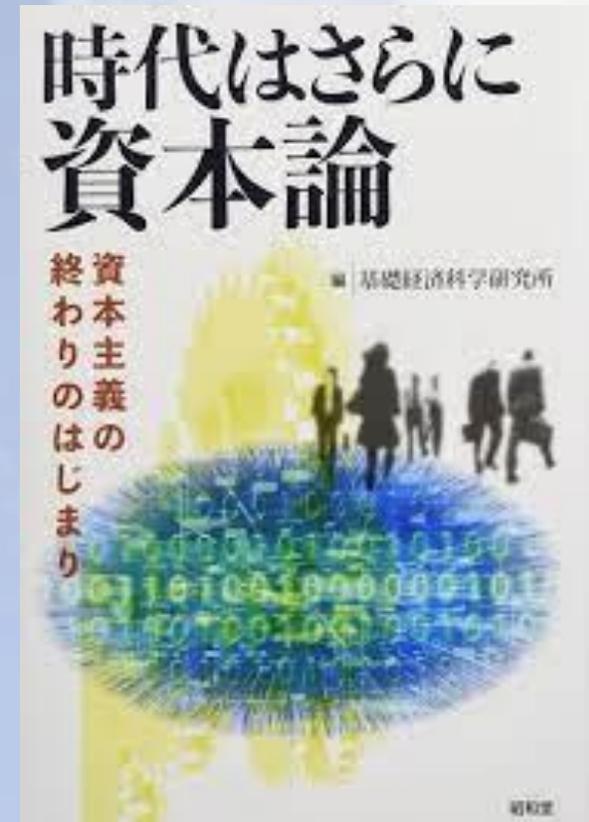
基礎経済科学研究所編

『時代はさらに資本論—資本主義の終わりの始まり』昭和堂 2021年5月

### 第7章 「雇用によらない働き方 —その実態と雇用社会の限界・未来社会」 から

※「雇用によらない働き方」→ここでは「個人請負」として記述

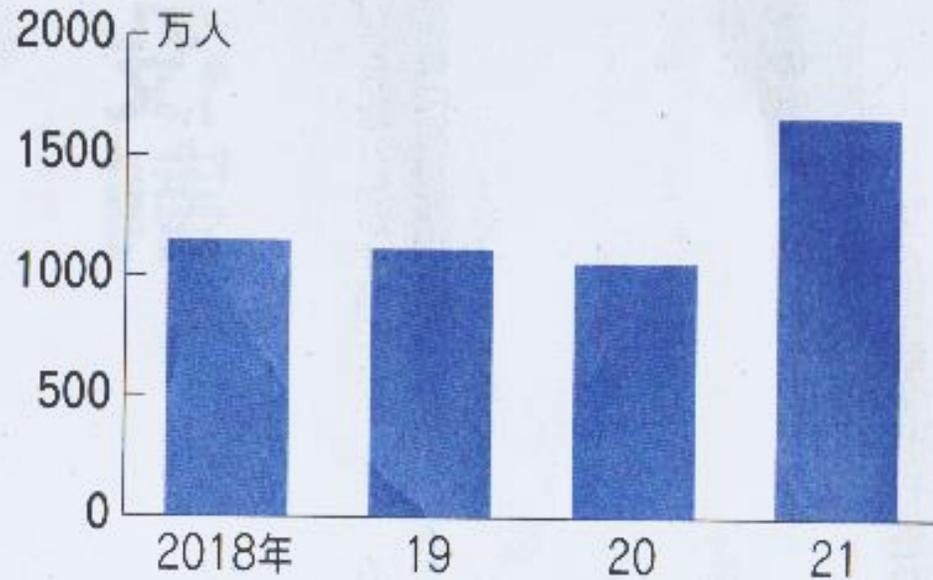
※ここでは、「個人請負」から見た未来社会のみを論じる



## \* 最近の新聞から

フリーランス人口 1670万人(2021年)  
前年より57%増 ランサーズ調査

### A フリーランスで働く人はコロナ下で増加



(注)ランサーズ調べ。副業を含む

2021-06-26日経新聞

## ウーバーイーツ 全国制覇

朝日新聞  
DIGITAL

### ウーバーイーツ、ついに全都道府県進出 「全国最後」の県は…

長崎緑子 2021年9月28日 9時46分



ウーバーイーツの配達員のイメージ=Uber Japan PR事務局提供

飲食宅配代行サービス「Uber Eats(ウーバーイーツ)」が28日から鳥取市でサービスを開始した。鳥取県内での営業は初めて。同日には島根、福井、徳島の各県でも開始する予定で、これで全47都道府県に進出することになるという。

ウーバーイーツは、国内では2016年9月に東京で始まり、スマートフォンのアプリで登録された店の料理を注文すると、自転車などで届けてくれる。料理代のほかに、配送手数料とサービス料がかかる。

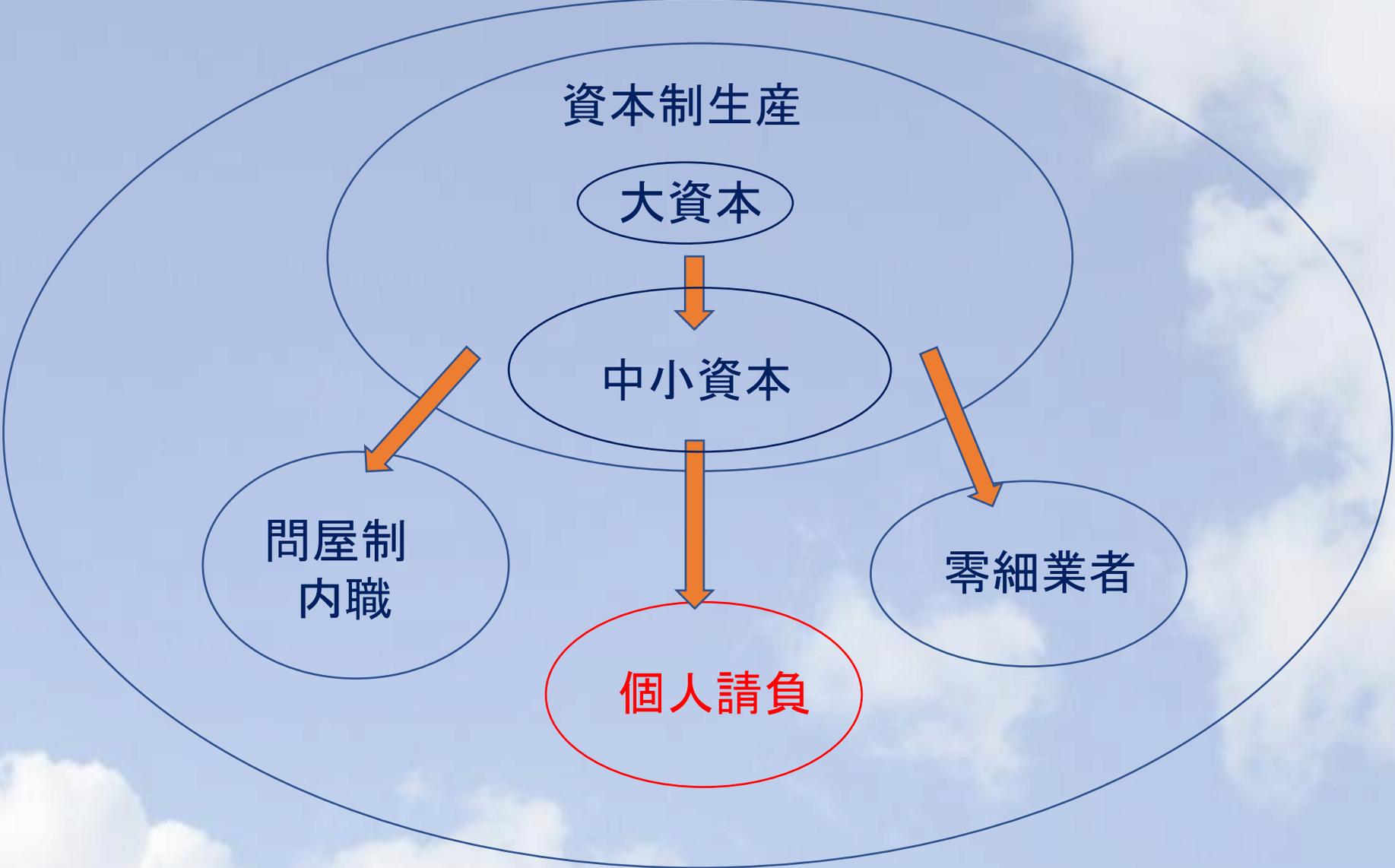
2021-09-28朝日新聞デジタル版



\* 資本制生産体制が存在する姿とは\_\_\_\_\_

- ・雇用される労働者の出現: 資本制生産体制の本格的な成立へ
- ・資本制生産体制の発展と共に、被雇用者の増加: 個人請負の減少
- ・工業化: 作業場: 同じ場所で働くこと: 作業の単純化
- ・ところが、大きな作業場の周りには、零細業者・個人請負が存在
- ・純粋な資本制生産体制は存在しない
- ・資本制生産体制は、それのみの生産体制で常に成り立っているのではない。  
必ず、その周りに他の生産体制・古い生産体制を利用し、存在させている。

# 資本制生産体制の姿



\*『資本論』の記述：周りに古い生産過程を直接包摂せず利用する

「[近代的]マニュファクチュアは、それ自身のかたわらに、分散した手工業的経営および家内経営を広範な基礎として存続させた。これらの労働部門における剰余価値の大量生産は・・・人間に可能な最大限の労働時間と結びついた、かろうじて露命をつなぐに必要な最小限の労賃のおかげであったし、いまもそうである」( I -S.495)

「家内労働の領域では、いつでも自由に利用できる産業予備軍がきわめて組織的に大量培養され、一年のある期間中はまったく非人間的な労働強制によって多くの命が奪われ、また他の期間中は仕事不足によって落ちぶれる」( I -S.502)

## \* 個人請負の論点

- ・個人請負の古典的形態・ルーツ: 農業部門: 労働隊: ギャングシステム : 『資本論』から  
「一時的または局地的労働不足は・・・女性および児童を農耕に強制的に引き入れ、労働年齢を絶えず引き下げ・・・男性農村労働者を過剰化しその賃銀を押し下げる新たな手段となる。・・・この“悪循環”のみごとな成果—いわゆる労働隊制度(ギャング・システムまたは徒党システム)—がさかんに行われている。・・・労働隊は、10人ないし4、50人の・・・女性、男女の年少者(13ないし18歳)、・・・男女の児童(6ないし13歳)で構成されている。・・・[労働隊長]は労働隊を募集[し、]・・・農場から農場へ移動していき、・・・年間6—8ヵ月も働かせる」( I -S.722-3)

※農業部門での記述: 資本制生産体制と言えるのかどうか、前資本制生産体制か。

労働隊の親方は後の派遣業者である

## \* 個人請負の論点\_\_\_\_\_

・戦後も存在した内職:個人請負 江口栄一の研究

\* 高度成長まで、多くの家庭で内職をしていた:

\* 戦前の内職の姿:『路傍の石』: 少年吾一の母の夜の封筒貼りと吾一の失敗

\* 戦後の内職の姿: アイスクリーム紙容器づくり

・零細企業・業者の存在: 資本制の外部に存在: 資本制生産を支える役割へ

## \* 個人請負への流れ

---

・一人親方：建設業：古典的形態 現代まで続く姿： 親方制

\* 現代では、様々な職種で、多くの人々がフリーランスとして働いている

・今日の雇用への政策：流動化、規制緩和 集団的労使関係から個別的労使関係へ 自己責任

・個人請負がフリーランスとして増加している： コロナ禍における働き方の変化

・デジタル社会における働き方の個人化が、さらに個人請負を促進

・今増えつつある雇用者から個人請負への流れ：葬祭業ベルコ、はかりのタニタ

・個人請負により、企業が雇用主責任・使用者責任を全うしない方向への進展：

・長い歴史の中で、労働者は雇用主責任、使用者責任を追及し、その成果が工場法・労働法である。

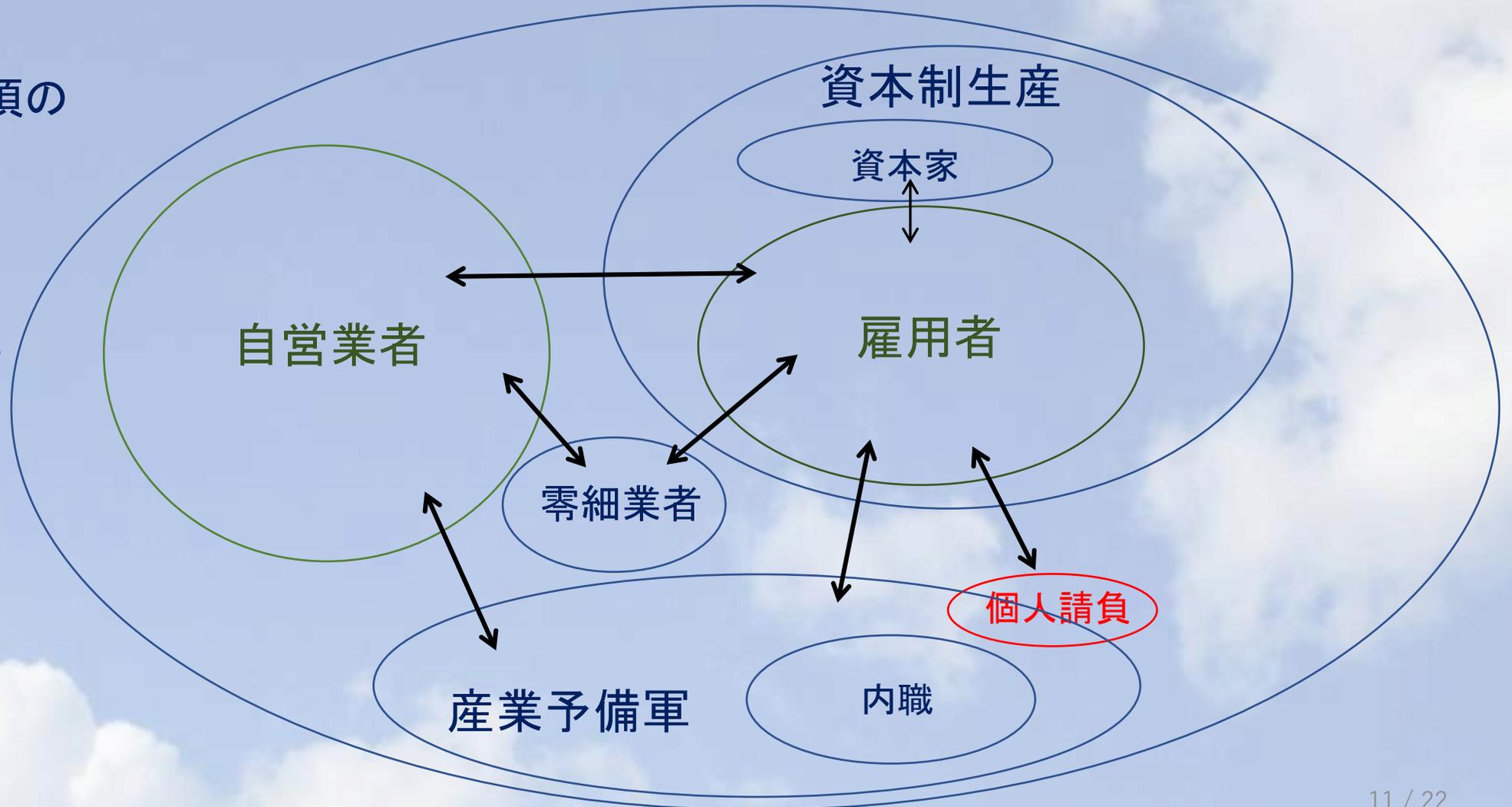
・資本と労働の関係： 雇用の変化 ： 間接雇用を推進： 派遣・個人請負

・派遣労働の解禁は、その一里塚、個人請負化は、その究極の到達点と言える。

# \* 日本の資本制生産体制の成立と、その後の展望\_\_\_\_\_

働く人たち 1950年代

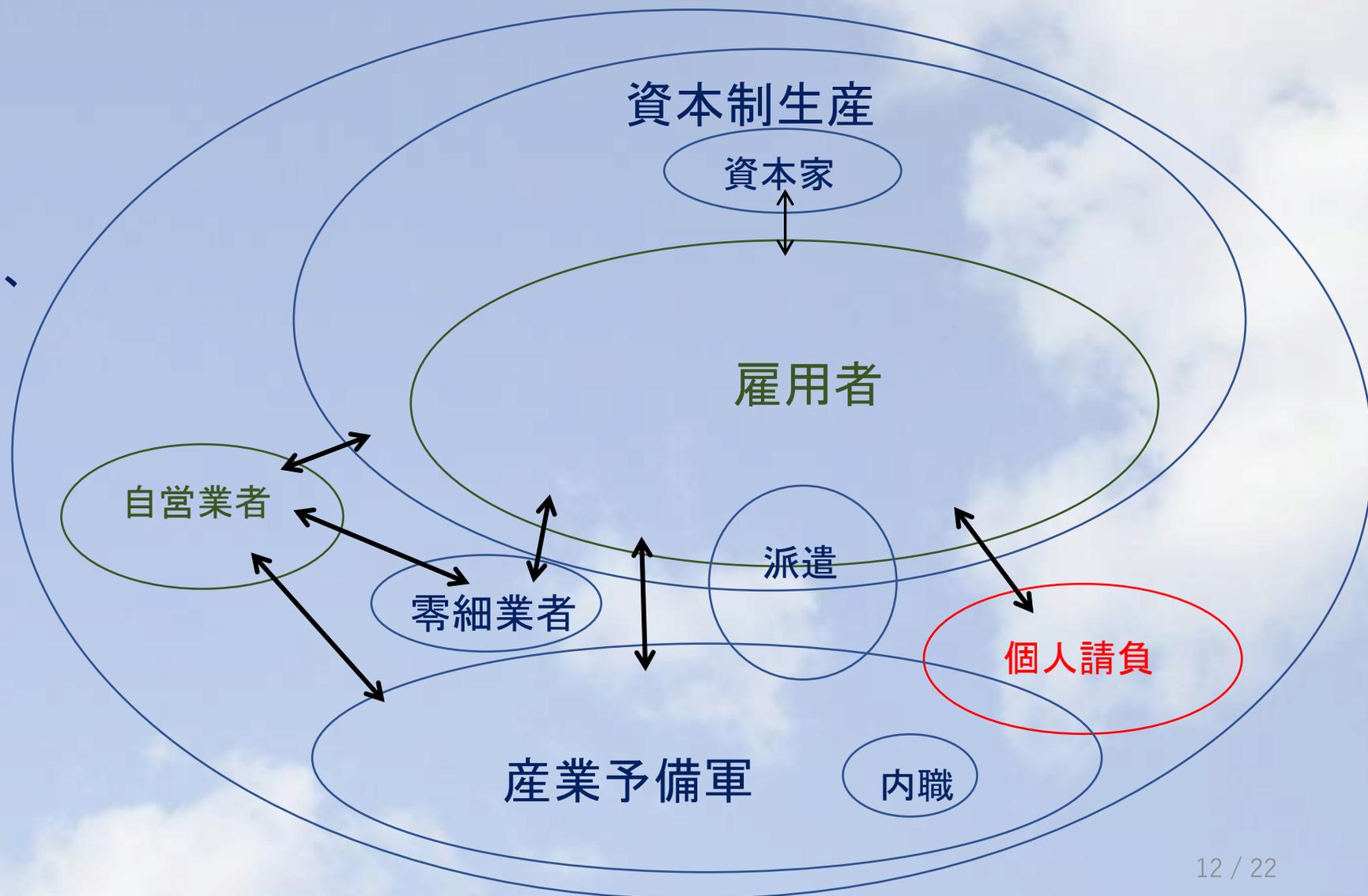
・戦後、1955年頃の  
雇用者は  
就業者のうち  
4割強であった。



# \* 日本の資本制生産体制の成立と、その後の展望

## 働く人たち 現代

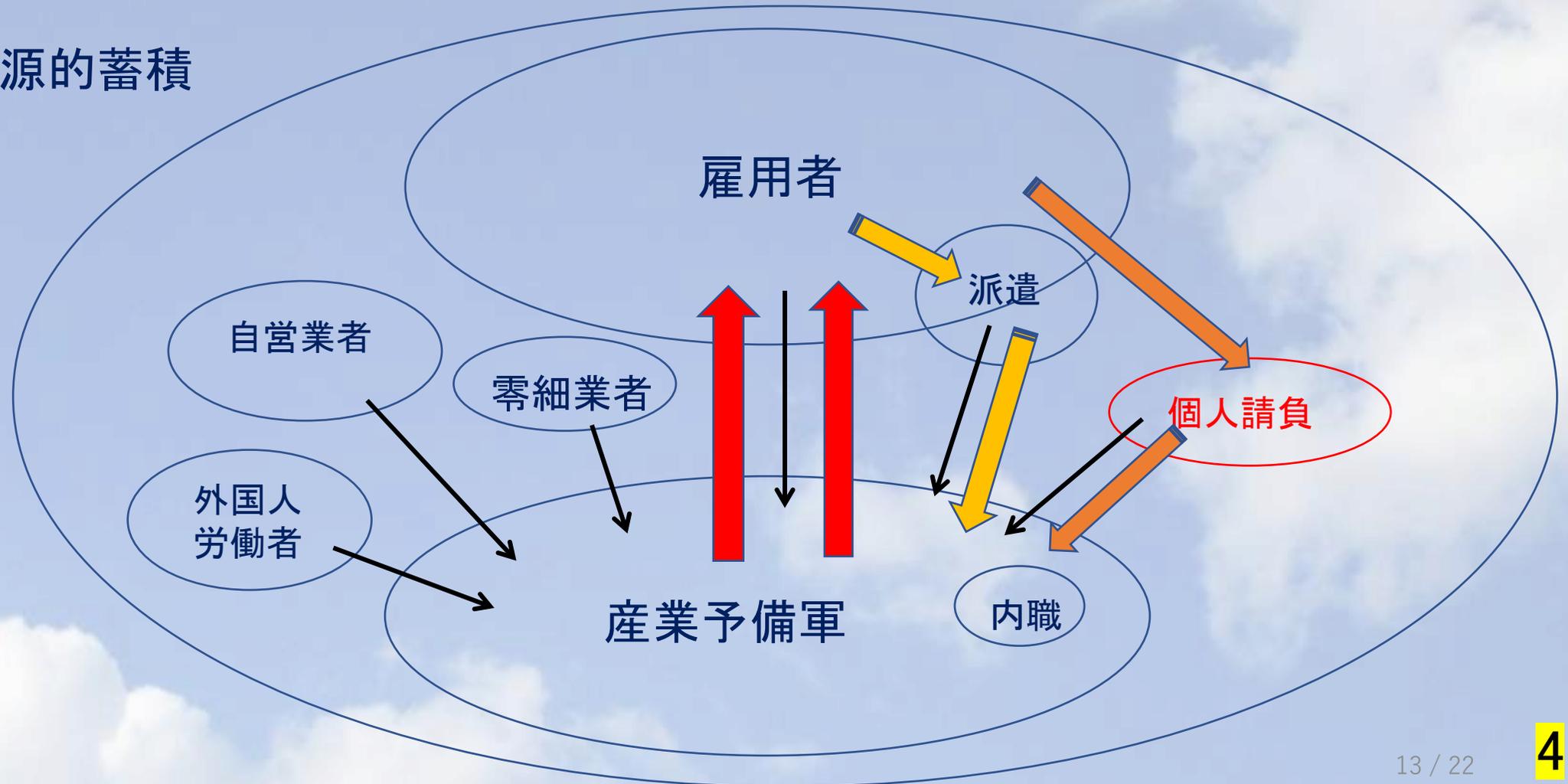
・その後の高度成長期が、日本における資本制生産体制が完成へと向かう時期であり、やがて8割以上の働く人々が労働力となっていく、現代が資本制生産体制の一つの頂点ではないか。



## \* 常に行われる「本源的蓄積」

- ・本源的蓄積: 資本制生産の前段階ではなく、常に別の生産体制から労働力が供給されている。また、国内だけでなく、国外からの供給されている。

### 現代の本源的蓄積



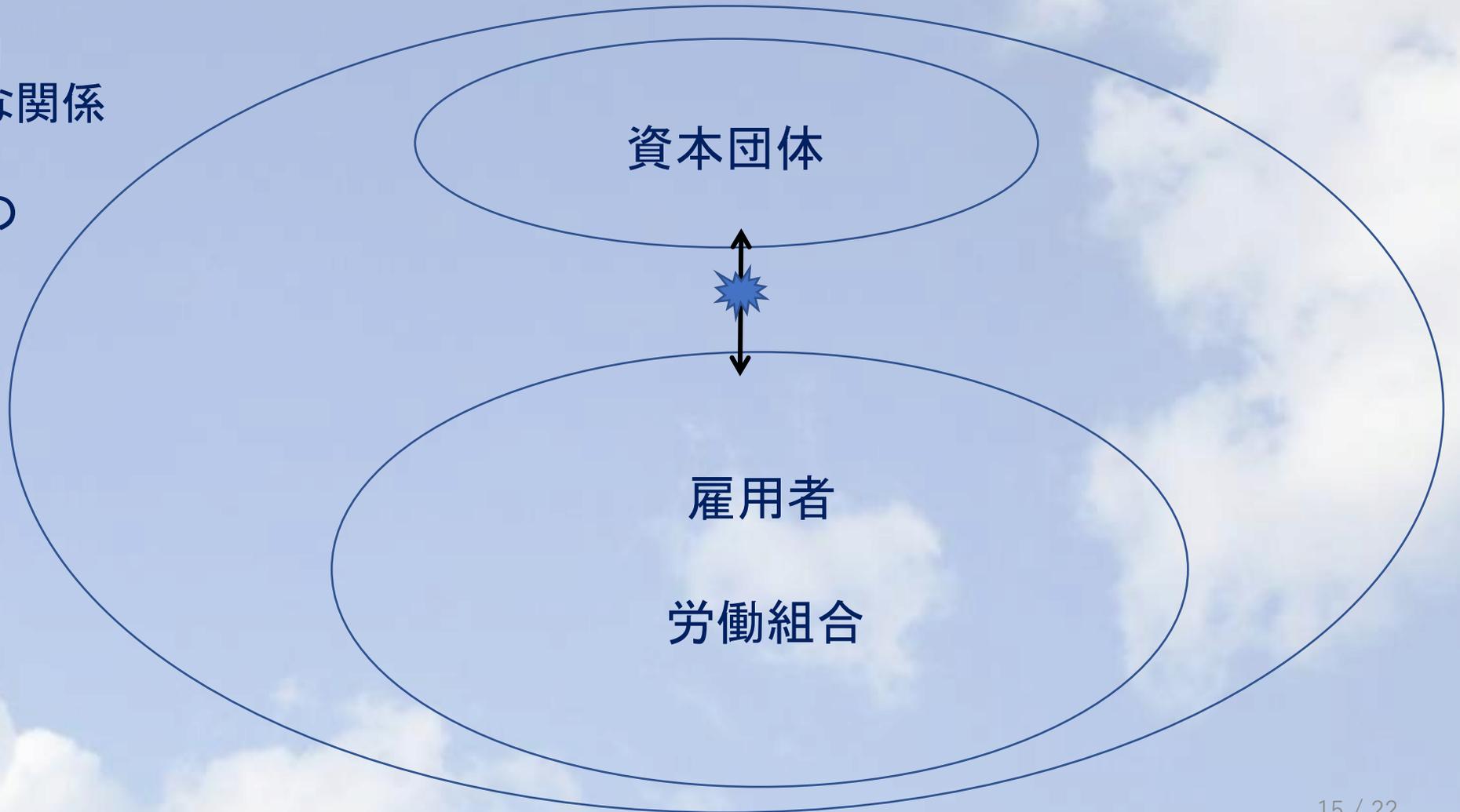
## \* 常に行われる「本源的蓄積」

- ・別の生産体制からの労働力供給の受け皿になるのは、直接的な資本・企業ではなく、労働力供給を専門とする機関・業者が担っている。ここに、「派遣」労働力として供給業者の存在がある。
  - ・「派遣」労働力として働くことが出来ない人は、手っ取り早くネットの個人請負を行うが、ここにも業者が存在する。さらに、マッチングプラットフォームで個人請負の仕事に走る
  - ・戦前は、産業予備軍・相対的過剰人口は、農村に逃げ場があった
  - ・戦後も、高度成長期までの出稼ぎ、ここまでは農村に産業予備軍が存在、高度成長期に都市・工業地に人口が集中、それは現在も続く、地方の過疎化
  - ・現代の資本の対応措置：外国人労働者に産業予備軍・相対的過剰人口を求める これが今後はもっと本格化する ※日本には移民はないと言われているが、戦前の朝鮮人、現在の中国・ベトナム人等
  - ・産業予備軍・相対的過剰人口の視点とともに、
- また本源的蓄積論から、非正規労働者及び・個人請負をもっと論じる必要がある： ※問題提起のみ

# \* 日本の資本制生産体制の成立と、その後の展望\_\_\_\_\_

## 資本制生産 集团的労使関係

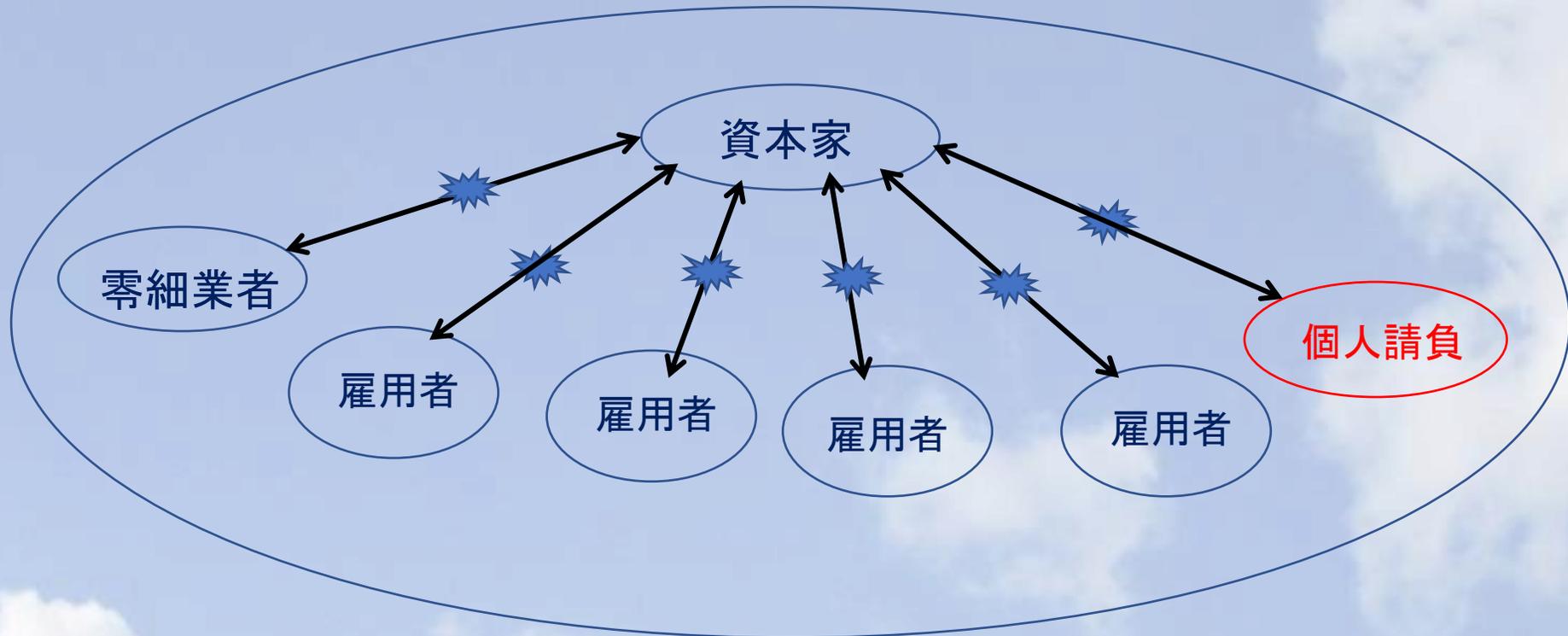
・「資本 対 労働」  
もともとは集团的な関係  
労働者の闘いで  
勝ち取ってきたもの



## \* 日本の資本制生産体制の成立と、その後の展望\_\_\_\_\_

### 資本制生産 個別的労使関係

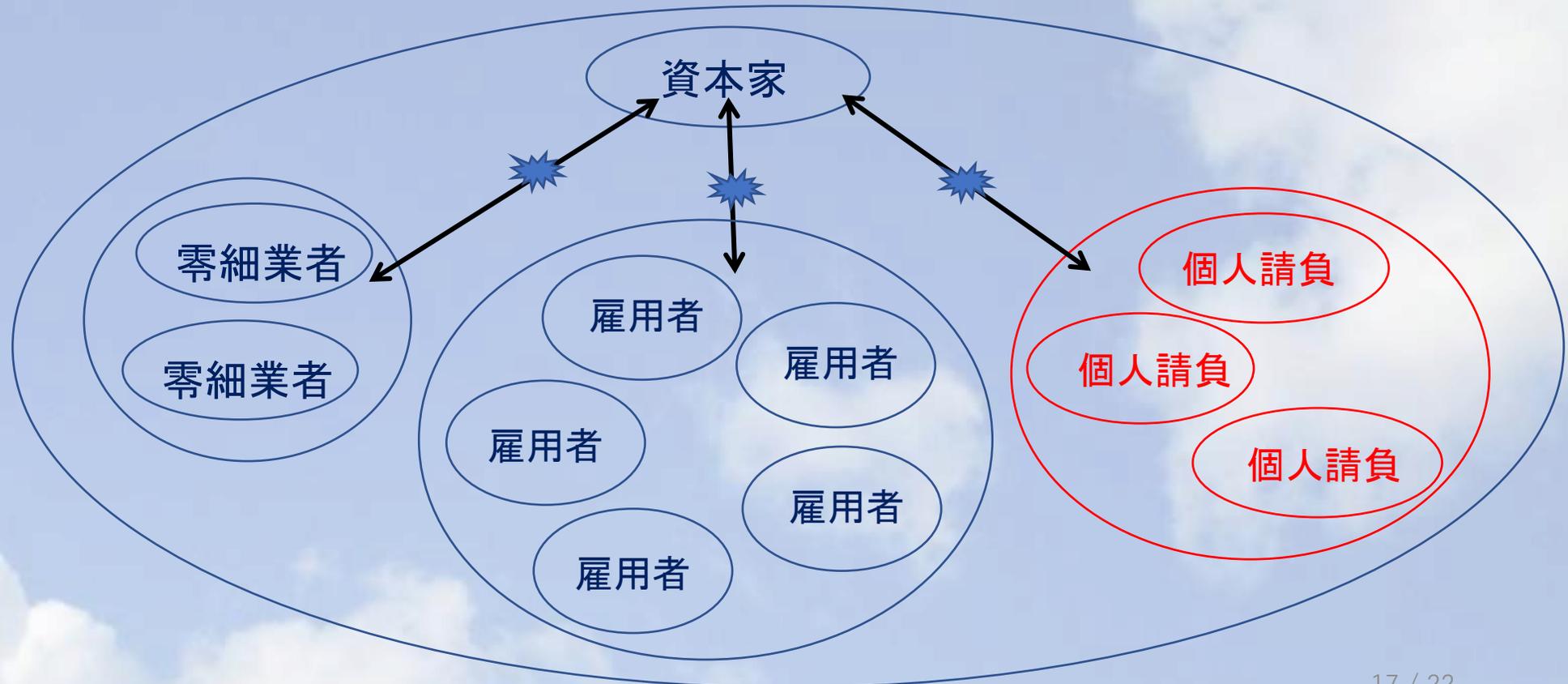
- ・「資本 対 労働」 現代、個別的な関係にされている



# \* 日本の資本制生産体制の成立と、その後の展望

## 資本制生産 共同体の再建の第一歩

- ・共同体の再建: その一歩: これからが、資本制生産体制に対抗する生産体制が本当に芽を出し成長していく時期に入っていくのではないか。
- ・その対抗する生産体制は、大多数の働く人である労働者が協働して成立する

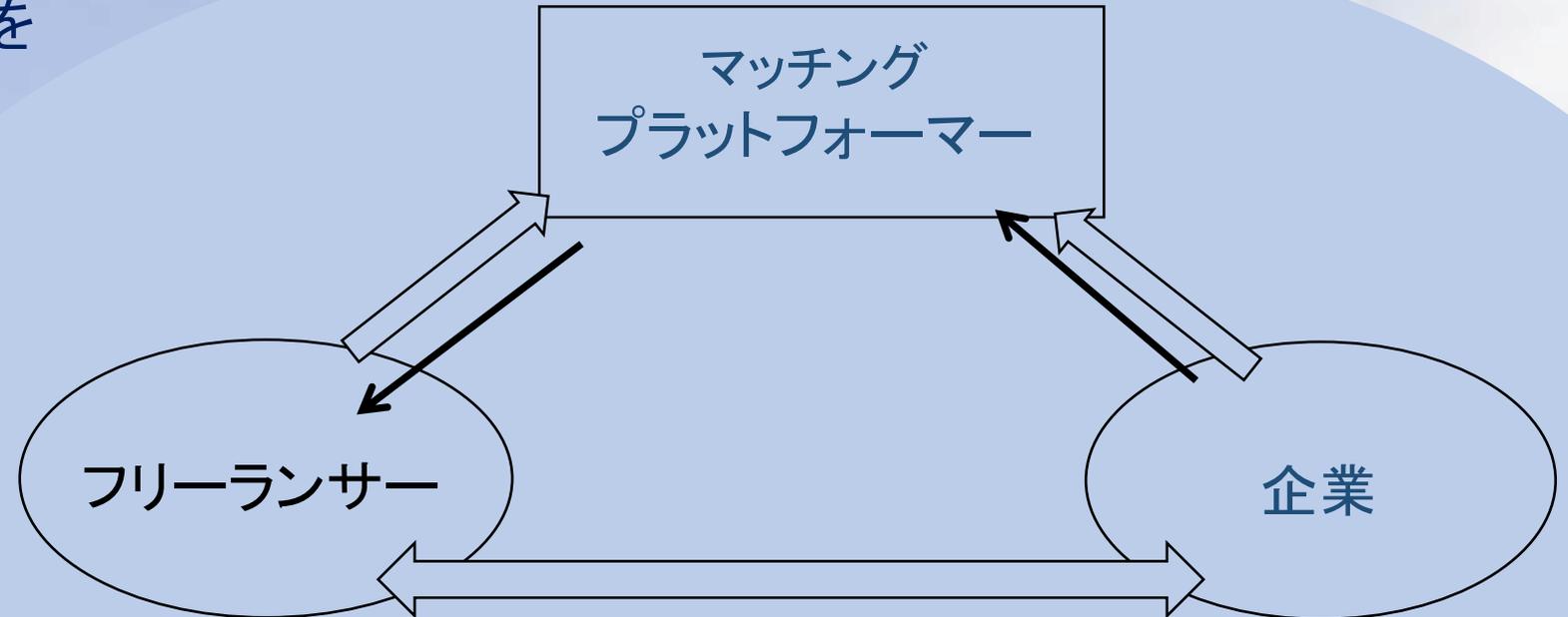




# \* 資本制生産体制から次の生産体制へ、その萌芽\_\_\_\_\_

## 資本制生産 個人請負の共同体

- ・本来の「雇用によらない働き方」へ
- ・協同労働の可能性: すでにベースはできている
- ・派遣業を労働者自ら協働で運営する
- ・マッチングプラットフォームを労働者自ら協働で運営する

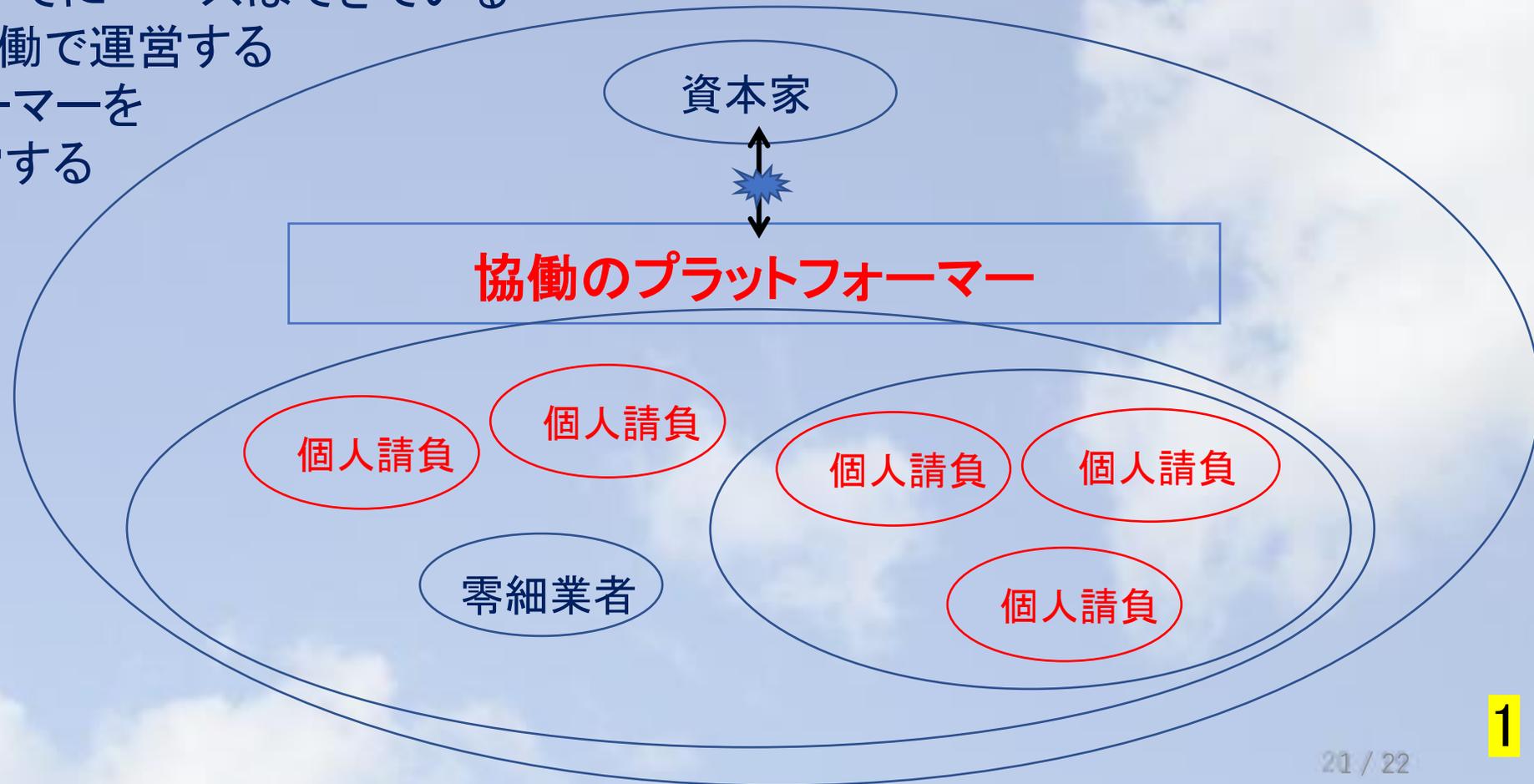


資本によるプラットホーム

# \* 資本制生産体制から次の生産体制へ、その萌芽\_\_\_\_\_

## 資本制生産 個人請負の共同体

- ・本来の「雇用によらない働き方」へ
- ・協同労働の可能性: すでにベースはできている
- ・派遣業を労働者自ら協働で運営する
- ・マッチングプラットフォームを労働者自ら協働で運営する



# 共同体

## 共同体による所有

機械設備など

## 共同体による所有

※本来は無所有

データベースなど

土地など

# 協同労働

労働者

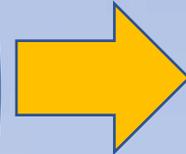
労働者

労働者

労働者

労働者

# 現代の経済社会



共同体の形成

# 共同体への経済社会



\* 資本制生産体制から次の生産体制へ、その萌芽\_\_\_\_\_

- ・協同労働の共同体：個別・分散的に運営される、さらにその連合体を形成していく
- ・いろいろな共同体の連合体が、資本制生産体制の対抗措置、凌駕する生産体制になっていく
- ・当初は、「資本」概念に基づき、出資・配当、  
そのうち「資本」が減り「協同・協働」に基礎を置く生産体制へ ※楽観的未来社会論
- ・派遣労働の解禁・個人請負化による使用者責任の回避は、自らを守る力を持つことと共に、  
国の労働政策の転換、働く者の権利・保護を求める運動が必要である。

\_\_\_\_\_以上です

高田好章 「雇用によらない働き方」から視る資本制生産体制